

集団を利用した調理活動

医療法人社団 玉栄会 東京天使病院 リハビリテーション科
作業療法士 中村 哲也

【はじめに】

当院では平成22年4月第1.3.5日曜日に、余暇活動の一環として集団活動を取り入れたリハビリテーションを作業療法士を中心として始めた。当初は、調理活動を始め、七宝焼き、木工作業、糖尿病患者への指導など入院している患者層に合わせた様々な活動を取り入れて行っていたが、数年継続し集団活動を行っていく中で、調理活動へのニーズは高く、平成26年4月より第2.4日曜日(実施時間15:00~16:30)に調理活動のみ焦点をあて活動を行っていく事にした。

【活動内容】(平成26年4月6日~平成27年2月22日 全20回実施)

対象は回復期病棟に入院している患者であり、実施期間中における内訳は参加患者数全61名(平均年齢74.5±9.9歳) 男23名(平均年齢70.0±11.4歳) 女38名(平均年齢77.2±7.9歳) 疾患別 脳血管障害49名 運動器疾患10名 廃用症候群2名である。

集団の進め方については、OT3名 患者3~5名での小集団での活動で担当セラピストにおけるリーダー制を用いている。課題中心型の集団であり、開放性はセミクローズドで行われ、メンバー間の交流を促していく。

調理するテーマについては各患者の身体機能に合わせた調理活動や季節的な要因を取り入れたもの、患者が希望するものなど、担当するリーダーOTが判断し行う。作業工程は参加するOT内で協議し患者に適した動作及び道具を選択し決定していく。また、調理活動を行う患者主治医への確認、必要な食品購入、費用請求、計画書及び報告書記載、調理当日の消毒なども行う。

【集団活動を利用していく意味】

共有体験、普遍的体験など普段個別での訓練では感じる事が得にくい感情を集団活動を利用して、患者自身への気づきを促す事に活用している。

【参加した患者の声】

「自宅に帰る前に自信になった」「便利な道具がある事を知った」「自分に何が必要かが分かった」など比較的前向きな発言が多く聞かれる。また逆の意見では、「内容が簡単すぎる」「自宅の台所と環境が違うからやりにくい」「一回に作る量が少ない」などの声も聞かれる。

【今後の課題】

時間のかかる料理を取り入れていく事が難しい、今後の支援に必要性がある男性患者の参加率が低い、自宅環境との違いなど、今後対応していかなければいけない課題も残されている。